

学習したことの定着率を高め、家庭学習や読書の習慣を育てる。

学力向上推進員 委員 校長 寺奥 幹生 教頭 堀井 正章 教務主任 立石美佐子  
大下 真季

寺奥 幹生



(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	漢字を正しく読んだり、文章を読んで内容を把握したりする力は身につけてきている。基本的な四則計算や数量・図形についての基本事項は身につけている。	①漢字を正確に書き、計算を確実に解き、自ら見直そうとする。 ②既習の漢字を使い文章を正確に書こうとする。	①学期末の漢字テスト・計算テストで80点以上到達児童の割合を、漢字・計算とも80%以上にする。 ②既習の漢字を使い文章を正しく書き、自ら見直しができるようにする。	・漢字・計算問題を繰り返し行い、確実にできるようにする。 ・既習漢字を使った文章を書けるようにし、書いた文章は自分で読み返す習慣をつける。	○全教員が、漢字・計算問題のテストを実施し、間違いの多かった問題は補充プリントやドリルで繰り返し行い、基礎学力の定着を図った。 ○全教員が、日記を毎日チェックし、作文やノート指導も定期的に行った。その中で、文章の書き方や漢字の使い方に重点をおいて指導した。	①漢字テスト80点以上の児童の割合78% ・計算テスト80点以上の児童の割合76% ②作文や日記で既習の漢字を使おうとする意識が高まった。自ら文章を読み返し、間違いを訂正しようとする姿勢は高まっているが、自力で気付いて訂正できるかは不十分である。
	漢字を正確に書けなかったり、計算間違いをしてしまうなどの細かいミスがある。また、時間がたてば忘れてしまう児童がいる。図や資料、複数の文章を読み取り、それをもとに考え・判断する力が弱い。	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	○学習の課題に、漢字学習を取り入れたり、既習の漢字を表現物や生活の中で活用できるようにすることで、漢字力の向上定着を図る。 ○単元末テストの中で間違いの多かった計算問題を復習し、計算力の向上と基本的な知識の定着を図る。 ○定期的にノートチェックを行い、必要に応じてコメントを記入し、正確な文章を書く能力の育成を図る。	○間違いの多かった漢字・計算問題や、既習の問題を繰り返し実施した教員の割合を100%にする。 ○日記・作文指導やノート指導を定期的に行う教員の割合を100%にする。		B	・定期的に漢字・計算のテストを実施し、漢字や四則計算の基本的な知識や技能をより一層高める。 ・テストや宿題で、漢字・計算問題の見直しを行い、自らの間違いに気付く習慣を身に付けさせる。 ・日記や活動後の感想、お礼の手紙で既習の漢字が使えるように指導する。 ・国語だけでなく各教科や生活の中で語彙を増やし、児童が使えるようにする。	

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	ポイストレーニングや音読学習を毎日行い、はっきりした発音で読めたり、授業や行事等の発表でも自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。	①読解力を高め、活用力を身につけ表現しようとする。 ②調べた事実や分かったことに自分の考えを付け加えて文章を書き、進んでみんなに伝えようとする。	①国語・算数の読解力テストで、国語は80点以上到達児童の割合を80%以上に、算数は70点以上到達児童の割合を80%以上にする。 ②ノートに自分の考えや授業後の振り返りを書くことができ、進んで伝えることができるようにする。	・身の回りの事象を扱った学習や既習の知識を組み合わせる学習など、教材を工夫し多様な学習に取り組む。 ・思考の過程を重視し、自分の考えを言葉や図・絵などを使って書けるようにする。	○全教員が、朝の活動や授業・宿題でポイストレーニング・音読活動を推進した。全校での音読集会の内容も工夫改善を行った。 ○全教員が、読み取りや言語活動を取り入れた話合いの工夫を行い、授業を進めた。 ・大切な語句や重要なポイントに線を引く、書画カメラを用いて視覚化する、具体物や動作化を取り入れることなどで、読み取りの工夫を行った。 ・話合いの話型を提示したり、ホワイトボード・ネームカードなどを活用したりして話合いの工夫を行った。 ○児童の思考の過程を見取り、支援に生かしたり、話合いでの意図的指名を行ったりした。 ○活動の後には、必ず感想を書かせることにより、自分の考えや思いを具体的に書けるようになった。また、掲示することで、書く意欲も高まった。	①読解力テスト ・国語……89%達成 ・算数……67%達成 ②自分の考えや思いをノートにまとめ、進んで発言する児童が増えた。 ③授業後の振り返りや感想文などを、自分で考えて書ける児童が増えた。
	読解については個人差が大きく、読み取りの仕方や方法など、基本を繰り返し指導する必要がある。自分の考えを整理して人に伝えたり、理由を説明したりする力が十分ではない。友達の話や意見を聞いて自分の考えに生かすことが不十分である。	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	○読む活動を推進するために、ポイストレーニングの継続と内容の工夫、全校での音読集会を継続的に行う。 ○文章を絵や図、言葉等で表現する活動を積極的に取り入れ、キーワードや文章の要点をつかめるようにする。そのため、授業で思考の過程を大切に文章を絵であらわしたり、絵を文章にしたりして習慣づけを図る。 ○深まりのある話合いをするため、話合いの話型を活用し、自分の考えを人に伝えたり、理由を説明したりする機会を多くとる。また、少人数学級のため、他学年や他校との合同学習等での話合い活動に留意する。 ○体験(校外)学習や交流学習を積極的に行い、人と人とのつながりを深めるとともに、活用力の素地を培う。	○ポイストレーニングや音読を推進した教員の割合を100%にする。 ○読み取るための工夫をしたり、動を取り入れ話合いの工夫をしたりして、授業を進めた教員の割合を100%にする。 ○児童の思考の過程を見取り、話合いに生かしたり、ノート指導を行ったりする教員の割合を100%にする。 ○活動の感想やお礼の手紙などを毎回書かせる。		B	・自分の考えを発言するだけでなく、友達の話や意見を聞き、深まりのある話合いができるように学習形態や発問を工夫する。 ・朝会や全校集会で発言する機会を増やし、全校や縦割り班で話合い活動をする時間を確保する。 ・ノート指導を充実させ、発達段階に応じ自分の考えや思考の過程を記述する仕方を指導する。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	進んで課題や作業に取り組むことができ、宿題も忘れず行っている。 読書をするたびに記録することにより、自分の達成状況を知ることができ、読書賞をもらうことにより意欲的に取り組むことができた。	①意欲的に授業に臨み、自ら考えて課題を解決しようとする。 ②学年に応じた家庭学習の時間を確保し、行おうとする。 ③学年に応じた本を選び、1週間に60分以上の読書活動を行おうとする。	①進んで考えを発言する児童の割合を80%以上にする。 ②目標の家庭学習の時間を達成した児童の割合を、90%以上にする。 ③生活リズムチェックにより1週間に60分以上読書ができた児童の割合を80%以上にする。	・主体的・対話的で深い学びの授業が展開できるように、授業の導入や学習形態を工夫する。 ・家庭学習の課題を工夫し、家庭学習の取り組み方や自主学習の内容の充実に努める。	○学習課題の提示と学習の振り返りは、ほとんど毎時間行った。すべての教員が振り返りを大切に、学級全体で共有する場面の設定回数も増えた。 ○家庭学習のチェックや声かけを行い、継続的に取り組めるように働きかけた。生活リズムチェックを利用し、家庭学習の時間の確保について指導をした。 ○読書の重要性を話し、すべての教員が家庭での読書(週末読書、親子読書)を推進した。	①進んで発言する児童の割合80%以上。全員発表できている学級が増えた。 ②宿題提出……90%以上達成できている。しかし、宿題の取り組み方や家庭での学習時間の確保については不十分である。 ③読書……80%以上達成できている。図書室を利用する児童が増えたり、読書に対する意欲が高まったりした。
		具体的方策(教員の取組)	取組指標			
課 題	指示されたことは行うことができるが、「自ら考え」進んで新しいことに取り組む態度は不十分である。 学童で宿題をする児童が多く、自宅で集中して学習する習慣が身につけていなかったり、学習時間の確保ができていなかったりする児童がいる。 家庭での読書習慣が少ない児童がいる。	○学習の課題や進め方を明らかにし、児童が見通しを持ち、主体的・対話的で深い学びのある授業展開を心がける。 ○「学習の手引き」を活用して家庭との連携を図り、家庭学習習慣の継続の必要性和家庭学習の時間の確保を保護者に働きかける。 ○週1回または2回の15分読書の時間を確保し、1日10分以上の読書および週末の家庭での読書を推進する。	○学習課題の提示と学習したことの振り返りを毎時間行い、児童が課題解決する授業を展開する教員の割合を100%にする。 ○家庭学習課題のチェックにより、家庭学習の習慣を継続する必要性和学習時間の確保について、働きかけを行った教員の割合を100%にする。 ○「生活リズムチェック」や宿題、声かけにより、1日10分以上の読書および週末の家庭での読書を推進できた教員の割合を100%にする。	B	・児童が主体的に学習に取り組めるように、引き続き学習課題の提示と学習の振り返りを行う。 さらに、発達段階に合わせた方法で児童といっしょに学習計画を立て、見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ・家庭学習の課題を工夫し、家庭での学習(学童を除く)の時間が確保できるように学習時間を設定し、児童に意識づけするとともに保護者にも働きかける。 ・学年の発達段階に合わせて自主学習に取り組めるようにノート指導や家庭学習の取り組み方についての指導を行う。 ・家庭での週末読書読書を推進し、家庭で読書することを学校全体で重視し、引き続き取り組む。	